

氷川神社 (その二)

氷川神社は「その一」で申し上げたように、武蔵の国一円に建立されており、その数は次のとおりです。

埼玉県 一六七社
東京都 七二社
神奈川県 三社

このような数多くの氷川神社の元締めは、現在のさいたま市、元の大宮市にある氷川神社が総鎮守社として総括されています。中野区内には、東中野、弥生、本町、沼袋、上高田、江古田の六社の氷川神社があります。

さて、我々の地域に最も近いのは、東中野一丁目にある氷川神社です。敷地は5千㎡。本殿、拝殿、神楽殿の他、稲荷神社、北野神社、御嶽神社、塩釜神社が併設されています。境内には三対の狛犬の石像があり、郷土史家の濱田熙氏によると、一番新しいのは昭和五十年、次が昭和六十年、最も古いものは安政四年で、それぞれ特徴があるとのこと。また、本殿の正面に掲げられている氷川神社の額の文字は、明治維新、日本の開国に功労のあった勝海舟の書によるものです。そして、境内にある「忠孝」の碑と「石灯籠」に私の父の名が刻まれているのを、今回初めて知りました。



本殿の「氷川神社」の額の文字



雑感 (その一)

平成10年の暮れ、この地区の今昔について探求しようと言う企画が、地域ニュース編集委員会にて提案されました。

そこで、旧家である4丁目の矢嶋一敏さんと私が所有する昭和初期の写真を始め掲載記事にしたのが、平成11年1月25日発行の231号です。以来今日まで「東中野今昔物語」は丸5年になりました。

この土地に生まれ、全てを知りつくしていると自負していましたが、いざ一つのテーマに取掛かると、簡単に記事にする事は出来ません。区役所や中野区歴史民俗資料館、都庁や新宿の資料館等、何度も足を運びました。また、隣区に「上落合郷土史会」と言う歴史愛好会があり、その諸先輩から意見を聞き、数行の記事にもしました。

以来5年間で掲載したテーマは約20、その内容は当然東中野地域センター管内でありますが、角度を変えてこの地域を取り巻く近隣地区の事情を知ることもし、新宿区や上高田の方まで取材をしました。

町は年々変化をし、5年の間に変貌しつつある所は随所にあります。その最たるものは山手通りでしょう。